

## 令和3年の病害虫の発生と防除

農林水産省消費・安全局 植物防疫課防疫対策室  
農産安全管理課農薬対策室

令和4年の病害虫防除シーズンに向けて、令和3年の天候経過、主要病害虫の発生概況および植物防疫事業概況等を取りまとめたので、今後の病害虫防除対策の検討資料として紹介する。また、令和3年に都道府県から公表された病害虫発生予察情報（警報、注意報、特殊報）について、別表2に取りまとめたので、本文での病害虫発生状況の記述と併せ参照されたい。

## I 天候経過の状況（気象庁報道発表資料より抜粋）

## 1 令和2年冬（令和2年12月～令和3年2月）の特徴

（1）冬の前半に強い寒気が流れ込んだ時期があったが、後半は寒気の南下が弱く、また、北日本付近を通過する低気圧に向かって暖かい空気が流れ込んだ時期もあったことから、冬の気温は東日本でかなり高く、西日本と沖縄・奄美で高くなった。冬の前半と後半で気温の変動が大きかった。

（2）冬の前半に強い寒気が流れ込んだ影響で、記録的な大雪となった所もあり、冬の降雪量は西日本日本海側でかなり多くなった。また、冬の後半には北日本付近を低気圧が通過することが多かったため、冬の降水量は東日本日本海側でかなり多く、北日本日本海側で多かった。

（3）冬の後半を中心に、冬型の気圧配置が続かず、寒気の南下が弱かったことや、高気圧に覆われやすかったため、西日本日本海側と西日本太平洋側では、平年比がそれぞれ126%、118%と統計開始以来1位の多照となった（統計開始は1946/47年冬）。

## 2 令和3年春（3～5月）の特徴

（1）3月に日本付近への寒気の南下が顕著に弱かったことなどから、春の平均気温は全国的にかなり高くなった。

（2）期間を通して低気圧や前線の影響を受けやすかった北日本と、5月に梅雨前線の影響を受けた西日本太

平洋側では降水量がかなり多くなりました。なお、梅雨前線が平年より早く北上したため、西日本の各地方と東海地方では、平年よりかなり早く梅雨入りしたとみられる。

（3）移動性高気圧や太平洋高気圧の影響を受け、梅雨前線の影響が小さかった沖縄・奄美では日照時間がかなり多くなった。

## 3 令和3年夏（6～8月）の特徴

（1）東日本太平洋側の7月上旬の梅雨前線による大雨や、8月中旬を中心に本州付近に停滞した前線の大雨で、東日本太平洋側と西日本の夏の降水量はかなり多かった。

（2）7月後半を中心に太平洋高気圧に覆われ、その前後も高気圧に覆われやすかったため、北日本の夏の日照時間はかなり多く、気温はかなり高く、北日本日本海側の降水量はかなり少なかった。

（3）沖縄・奄美では、7月の終わり台風第6号が沖縄付近をゆっくり進んだのをはじめ、熱帯低気圧や台風の影響をたびたび受けたため、夏の降水量は多く、日照時間は少なかった。

## 4 令和3年秋（9～10月）の特徴

（1）9月は沖縄・奄美では、高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、気温はかなり高かった。また、10月は月の前半は北日本では暖かい空気が流れ込みやすく、東日本以南では高気圧に覆われて晴れた日が多く、全国的に気温が高くなった。後半にはこの時期としては強い寒気が流れ込んで低温となり、気温の変化が大きかった。

（2）9月は北日本で降水量が少なかった。10月は北日本では低気圧や前線の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多かったため、降水量は北日本海側でかなり多かった。一方、東・西日本では高気圧に覆われやすく、晴れた日が多かったため、降水量は西日本日本海側でかなり少なく、東・西日本太平洋側で少なかった。

（3）9月は北日本では、月を通して高気圧に覆われやすく、晴れた日が多かったため、日照時間は北日本海側でかなり多く、北日本太平洋側で多くなった。また、

Occurrence of Pests and Diseases and their Control in 2021 in Japan. By Plant Protection Division, Food Safety and Consumer Affairs Bureau, MAFF

（キーワード：令和3年、病害虫、発生動向、農薬、出荷状況）